

## びっくり

### 1. フクラスズメの幼虫

鳥でもスズメガでもない、ヤガと呼ばれる仲間です。成虫が寒さで膨れた鳥のスズメを思わせ、地味な色彩とぶかっこうな姿からつけられた名だそうです。

ところが、幼虫は全く反対にドギツイ色彩をした大きな毛虫です。道をぞろぞろ歩いていたりします。食草はイラクサやカラムシなのですが、7 cmくらいにもなる大食漢ですので、餌を食べつくすと食草を探して移動を始めます。この時出会うとびっくりします。

さらに驚かされるのは、イラクサやカラムシの群落が風もないのに突然揺れ始めることです。フクラスズメの幼虫は驚くと体を左右に



食草の1つカラムシ



フクラスズメの幼虫

振って威嚇します。それが他の幼虫にも伝わって騒ぎになるのです。気づかないで近づいた場合はびっくりです。怒らせて見てください。

色といい行動といい、目立つことこの上ないのですが、毛や体内にも毒はないようです。毒や嫌な味を持つ昆虫が、派手な色彩や行動で鳥など捕食者に記憶させ、2度と襲わせないようにする作戦か、毒のない昆虫がその色彩等を真似て捕食者を間違えさせて身を守ろうとする場合とありますが、どちらでしょう。味のほどは体験がありません。

食べている草は毒がありませんので、体内に蓄えることはできません。

### 2. ナキリスゲ

「菜切り」の意味でつけられたスゲの名称です。幅3~4 mm、長さ30 cm以上にもなる細長い葉の縁が、ざらついていて菜葉が切れるというのです。実験して見ました。



ナキリスゲ

硬い葉は駄目でしたが、タンポポの葉は写真のように見事に切断でき、びっくりしました。切り口もきれいです。ただし、葉の元を持ち手前に引いた時に切断でき、反対向きでは切ることができません。



ナキリスゲで切ったタンポポの葉

葉の縁を拡大して見ると理由がはっきりします。ガラス質の下向きのトゲがついているのです。鋭い鋸の刃になっているのです。包丁ではなく鋸なのですが、刃が小さいため切り口がきれいなのです。手で持って動かす時、気をつける方向があるということです。

スゲの仲間は葉が硬く丈夫であるため、昔から笠や蓑の材料として利用されてきました。種の同定は難しいといわれているのですが、ナキリスゲは間違えることのないスゲです。林床や少し影になっている場所に生え、細長い濃緑の硬い葉がかたまると出た株を作り、秋に数十cmの花穂が斜めにしなだれるからです。秋に開花するスゲは他にありません。ナキリスゲ同様に打吹山に多いヒメカンスゲは葉が短く、花は3月です。



ナキリスゲの花穂